



国際ロータリー第2620地区 米山学友会

会報 Vol.14 2022-23 年度



撮影：李 重楼会員

2023 年 5 月 発行

目次

(敬称略)

- 1、学友会の新時代へ向けて (会長あいさつ) 青山 チャリット
 - 2、木々の緑に目を向けませんか (ガバナー寄稿) 浅原 諒蔵
 - 3、世界平和へとつながる「米山記念奨学事業」(委員長寄稿) 渡辺 郁
 - 4、米山奨学生の皆さんに贈る言葉 米山奨学生カウンセラー 田中 慶一
 - 5、米山奨学生からの謝辞 米山奨学生 辛 飛揚
. 米山奨学生 掲 姍姍
. 米山奨学生 李 旻玉
 - 6、2022-23 年度 期間終了の米山奨学生一覧
 - 7、2022-23 年度 理事会メンバー一覧
 - 8、2022-23 年度 活動記録 (写真)
 - 9、東北被災地訪問を終えて 米山学友 李 重楼
. 米山奨学生 謝 斯成
. 米山奨学生 仇 英嬌
 - 10、2023-24 年度 新規・継続・クラブ支援の米山奨学生一覧
 - 11、2023-24 年度 主な行事予定
- 表紙写真撮影：米山学友 李 重楼 (中国、2021-22 年/静岡西 RC)

1. 学友会の新時代へ向けて

米山学友会長

青山 チャリット（スリランカ出身、2006-08/静岡日本平 RC）



2620 地区米山学友会を設立してから今年で 14 年目になりました。学友会の会長として、または 2620 地区米山学友会創立時のメンバーとして「会報第 14 号」をお届け出来ることを大変嬉しく思います。

今年度は、新型コロナウイルスによる行動制限が徐々に緩和された 1 年となりましたが、完全収束には至っていない状況です。特に日本国内ではマスク着用が個人判断となっても、マスク着用率が極めて高いことから、他国と比較してコロナへの警戒心が高い印象です。

そのような状況下で、当学友会は例年通り様々な活動に取り込んで参りました。特に、スリランカの政治情勢が不安定ということで、2021-22 年度中に実施出来なかった子供たちへの文房具寄付プロジェクトは 2022 年 8 月に無事に実施することが出来ました。ガソリン不足の影響によりスリランカ国内での移動は困難で大変なこともあったが、文房具を受け取って喜ぶ子供たちの笑顔を見る度に、本プロジェクトの必要性を身に染みて感じています。引き続き、ロータリアンや学友の皆さんによるご協力の下、同じような国際教育支援プロジェクトを継続していく所存です。

当学友会の東北支援プロジェクトとして、東日本大震災で被害が大きかった岩手県山田町に河津桜を植樹してから今年で 10 年に経ったということで、今年の 4 月に被災地を再訪問してきました。我が学友会の手で約 10 年前に植樹した河津桜が逞しく育っていて、綺麗な花を咲かせている姿を見ることが出来て感無量になりました。現地訪問中に 2520 地区学友会との親睦会を通して交流を深めることも出来て、有意義な再訪問になりました。

次年度は 2620 地区米山学友会の設立から 15 周年を迎えます。引き続き会長を務めることになりましたので、次年度もロータリアンと奨学生の皆さんと交流を深めながら様々な社会奉仕活動や国

際料理教室など楽しいイベントを企画していきたいと考えています。

また、次年度で力を入れたいもう一つは若手学友リーダーの育成です。当学友会を設立してから約 14 年間、上野理事や篠原さんのような積極性のある先輩学友たちの協力もあって学友会を引っ張ってきました。しかし創立メンバーが長年に渡り役員や会長を務めてきたことで、学友会活動もマンネリ化していきます。15 周年を機に学友会を引っ張っていきける次の世代へバトンタッチするための準備を始めたいと考えています。そのためには、若手で積極的に学友会活動に取り込んでくれる学友を次年度の役員や副会長として迎え、タイトルにも書いた通り、次年度は学友会新時代への準備期間にして行く予定です。

次の年度は楽しいイベント企画や若手学友リーダーの育成で忙しい年度になりそうですが、学友会を次の世代へ繋げていく役目を会長としてロータリアンや学友の皆様と協力しながら精一杯努めて参ります。

最後に、浅原諒蔵ガバナー、渡辺郁地区米山記念奨学委員長にはご多忙の中、ご寄稿を頂きまして厚く御礼申し上げます。



渡辺郁地区米山記念奨学委員長と。
2022 年 9 月、柿田川清掃行事にて

2.木々の緑に目を向けませんか

地区ガバナー

浅原 諒蔵（静岡ロータリークラブ）



新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、この5月8日に第2類の分類から季節性インフルエンザと同じ第5類に変更されました。これによって漸く日々の生活は、以前のような状態に戻りつつあります。然しながら街中では、依然として大半の方がマスクを付けておられますが、これは長引くコロナのせいでマスクが顔の一部と化したことが理由かも知れません。

然し季節は一年の中で最も過ごし易い今、マスクなしでもOKなら、それではと言うことで屋外へと繰り出しました。

晴れた休日の昼下がり、久しぶりに近くの公園へと足を伸ばしてみました。肩に担いでいた春先以来の懸案事項の荷物も少し軽くなったせいか、自然と足取りも軽やかに歩みを進めると、少し見ぬ間に緑が随分と濃くなっており、芽吹きから新緑、さらに深緑へと季節は移り変わっていました。

一口にみどり色と言っても実に多彩で、また色を繊細に表現する言葉が我が国はあります。若草色（わかくさいろ：芽吹いたばかりの黄緑）、萌葱色（もえぎいろ：萌え出た葱の芽の色）、浅葱色（あさぎいろ：薄い葱の葉に因んだ色で、新選組の羽織の段だら模様の色）、このように数多くの緑色があり、其の数はざっと百種類にもおよびとても紹介しきれません。

これが英語のグリーンとなると、ダーク・グリーン、ライト・グリーンと言った味気ない表現となってしまう。そして日本の萌葱とか鶺鴒色（ひわいろ：黄味の強い明るい緑）と趣のある呼び方は、イエローグリーンと味も素っ気ありません。

この違いは、我が国の風土や気候にあると思われれます。日本は世界的に見ても水と緑に恵まれた四季がある国です。そして、その四季ごとに季節を彩る豊かな自然があります。

日本の伝統色の特徴は、その名前の殆どが草花に由来しており、また染色も草花を使って布を染めるといった具合に自然と生活が一体化しておりました。

一方、西洋では、貝の分泌物といった動物由来のものや鉱物性の染料、マンガンやコバルトなどを使って布を染める遣り方が、どちらかと言うと主流でした。そのため色の名前の付け方も、色の元となった物質、そのものを名前としたのでエメラルドグリーンとか、コバルトブルーとなっています。

また和名の色名称は、植物や自然の移り変わりの様を言葉で表現したケースが多く、色自体もその植物から取るため、ややくすんだ落ち着いた色となっています。それに対して西洋の多くは、鉱物性の染料のため鮮やかな色調に特色があります。また色の名前もお酒や食べ物、芸術や文化といった具合にとってもお洒落でモダンなものがあります。シャンパン・カラー、ブルゴーニュカラー（濃い赤色：仏の冬の代表色で大人の女性を表現する色）、ショクラ・カラー、ブルー・ド・モネ（少しくすんだ青み掛かった灰色：画家のクロードモネが描く睡蓮の色）といった具合です。

日本の伝統的な色名称と違ってお洒落なモダンに感じますし、その国の歴史や文化といったお国柄が出ております。色を文章で表現するのは難しく、また「これ何色」と聞かれても自分の感じ方と色名称が懸け離れていることが多いのが日本の伝統色です。その代表例が浅葱色で、新選組の隊士が着ているお揃いの羽織、あの段だら模様、筆者には青系統の色に見えるのですが、緑系とのことで感じ方もそれぞれです。

改めて公園の樹々の緑を見てみると実に多彩で、しかも日の当たり具合で同じ緑も陰になったところは、違う色合いとなっています。

一年で一番過ごし易いこの時期、屋外に出かけて、樹々の緑を見てみませんか。目を凝らして、じっくりと観察すると今まで気が付かなかったものが見え、多彩な緑色があることにきっと驚くことでしょう。

そこのあなた、スマホばかり見ていないで、たまには樹々の緑や空に浮かぶ雲に目を向けて下さい。何か新しい発見があるかも知れませんよ。

3. 世界平和へとつながる「米山記念奨学事業」



地区米山記念奨学委員長

渡辺 郁（甲府南ロータリークラブ）

いつかRI（Rotary International）の事業になるのではないかと密かに思っているのが、私が2620地区で委員長を務めている「米山記念奨学事業」です。

米山記念奨学事業では、来日した留学生に毎月給付型の奨学金をお渡ししています。しかし、それだけではありません。カウンセラーというお世話係を決め、クラブ単位で奨学生をお預かりし、留学生との交流を深めてきました。奨学金に加え、この交流こそが重要であると信じています。なぜなら、若いうちに異文化との交流を経験し、他者との共生や協力の重要性を学ぶことは、将来国際的なリーダーとしての役割を果たす上で不可欠となっているからです。

2620地区では今年も15名の優秀な奨学生を社会に送り出すことができました。各大学の卒業式を迎える時にやる気に溢れた表情でスーツや時には袴姿で卒業の報告に来てくれる彼・彼女らが、米山学友として国際社会を舞台に活躍する姿を想像することができます。また、当地区には彼・彼女らのお兄さん、お姉さんの存在に当たる「学友会」の存在があります。我々が事業をする際には陰に日向にサポートをし、米山奨学生を導いてくれています。この素晴らしい学友を支え育ててきた数多の

先輩ロータリアンの存在がいて、今日の学友が存在します。私たちも真摯に奨学生と向き合い、先輩達に恥じない行動をしていかなければと思います。

本事業の歴史は70年を数え、ロータリーはこれまでに2万人以上の留学生をサポートしてきました。この事業の真髄は、米山奨学生として日本で生活し、ロータリアンと密接に関わる中で日本への造詣を深めた元奨学生たちが世界のあらゆる場所で活躍し、国際親善・理解、そして世界平和に繋がっていることです。この「元奨学生」たちは、まさしく米山学友そのものなのです。

優秀な留学生たちはロータリーとの関わりがなくとも、各地で活躍していたかもしれません。しかし、人生の若い時期にロータリアンと接する中で日本の良さ、日本人の平和に対する考え方を理解してくれることで、その活躍の幅をさらに広げてくれると信じています。「米山記念奨学事業」はロータリアンとしての理念や価値観を、元奨学生を通じて世界中に広める大きな一翼を担っています。留学生とロータリアンとの関わりは、世界平和を実現する第一歩となっていると言っても過言ではないのです。

これからも留学生へ、継続的な取り組みと支援を行い、さらなる発展を目指して参ります。



2023年3月奨学生終了式にて(最前列右から3番目)

4. 米山奨学生の皆さんに贈る言葉

米山奨学生カウンセラー

田中 慶一（甲府ロータリークラブ）

2021年3月に清水元章地区米山奨学委員からカウンセラーを打診され、ロータリアンとして「ノー」は無いと思い「ハイ、喜んで！」と引き受けました。しかし、外国語が全く出来ないのに大丈夫なのかと心配になり山梨日々新聞の広告に掲載されていた音声翻訳機（1万円）をすぐに購入しましたが、米山記念奨学生の辛飛揚くんは日本語がペラペラであり1回も使うことなくお蔵入りしました。

同年4月5日オリエンテーションにて初顔合わせしましたが、辛くんの取り組み姿勢は素晴らしく甲府ロータリーの例会がある月曜日は学校の履修科目を外しており、積極的に例会に参加する意欲に感心させられました。

カウンセラーは、奨学生の父親代わりとして活動することが重要と当時の柳場委員長にレクチャーを受けましたが、年齢的にも自分が結婚した2年後に生まれており、この歳で初めて父親役が出来ることを楽しみに理想の父親像を頭に浮かべながら試行錯誤ありましたが、この二年間楽しく過ごしてきました。

辛くんは、極めて真面目であり毎週の例会に欠かさず出席しており、私も入会以来ホームクラブ100%出席を続けておりますが、辛くんは例会だけでなく私が出席できなかった富士山清掃の奉仕活動や甲府クラブの同好会活動にも積極的に参加していることで甲府ロータリーの会員の皆様に可愛がられています。

“父親”として唯一悩んだことと言えば就職活動でした。本人の希望を尊重し見守ってあげることには努めていましたが、昨年末まで何社にも応募するも内定がもらえず苦しんでいる姿を見てどうしたもんかと考えていました。

辛くん自身の人生であり希望する会社を自分で探してチャレンジすることが重要と見守っていましたが、2022年12月25日のクリスマス家族例会の帰り道で相談がありますと言われ、今まで東京の会社に就職をと考えていたが山梨の会社での就職も検討したいのでアドバイスが欲しいとのこと。

希望業種を聞くと金融関係。山梨県の金融機関と言えば山梨中央銀行からチャレンジしようと考え、いよいよ私の出番だとさっそく翌26日に関係者にアプローチ。すると山梨の企業で中国を含めたアジアへの進出や貿易をする企業をマッチングする業務で活躍できる可能性があることを聞き、既に今年度の採用は締め切っているとのことでしたが、優秀な留学生なので特別に会って頂けないかと話したところ快諾頂き、2023年1月4日第一業務日に人事担当者と辛くんの顔合わせが実現しました。

私からのアドバイスとして辛くんは字が綺麗で日本語を書くのも上手いので、履歴書を手書きで書くようにアドバイスしたことも吉と出て、素晴らしい留学生を紹介してくれてありがとうと感謝され、適性検査と最終面接も無事に通過しました。

山梨中央銀行は、静岡銀行との業務提携にて静岡・山梨アライアンスを掲げており、辛くんがこの2620地区を代表する企業に就職できたのも、米山奨学生になってから真面目にロータリー活動に参加してくれた彼の人間性と共に、ロータリークラブの強い絆と御縁を改めて実感しました。

卒業してからは2620地区の学友会としても活躍してもらい、30年後には山梨中央銀行の幹部として甲府ロータリーの会員になってくれるのではないかと淡い期待と自分の息子としての将来を夢見ています（笑）

私の父親として残された役目は、来週3月15日（木）に行われる山梨学院大学の卒業式に母国の父親に代わり出席し、我が子の雄姿をしっかりと目に焼き付けてくることです。

3月末で卒業される米山記念奨学生15名の皆さん本当におめでとうございます。

米山奨学生であったことを誇りに今後も各分野で活躍してくれると期待していますので頑張ってください。

有難うございました。

（3月5日米山記念奨学生期間終了式にて）

5. 米山奨学生からの謝辞 ――終了式にて

奨学生生活で変わったこと

辛 飛揚 シン ヒョウ

(中国 2021-23/甲府 RC)

米山奨学生の辛飛揚と申します。本日、ここに立って挨拶をさせていただき、ありがとうございます。

まずは、米山記念奨学委員会の皆様に感謝いたします。いつもお世話になっております。奨学生になって、最初はいろいろなことがわかりませんでした。その時、よく委員会の皆さんに優しく教えてもらいました。特に、前の米山奨学委員長柳場さん、今年度委員長の渡辺さん、そして清水さんにいろいろなお手数をおかけしました。

そして、私のカウンセラー田中さんに感謝申し上げます。ここまでの2年間、田中さんの指導により、いろいろなことが勉強になりました。例えば、毎月の奨学金をもらう時、一言の助言をいただきます。そして、日本の社会人としていろいろな注意事項を教えてもらいました。そのようなことは学校では勉強できないと思います。そして、私は質問や困ることがある時、クラブの例会だけではなく、平日も相談できました。4年生になり、就職活動があまりうまくできなかった時、よく相談して、私の考え方も変わりました。最後に田中さんのおかげで、無事に就職できました。いつもやさしくて、日本の父親みたいな感じだと思います。本当にありがとうございました。

この2年間の奨学生生活で、本当にいろいろなことが経験できました。私はけっこう緊張しやすいのです。しかし、クラブの100人くらいの社長さんの前でスピーチすることに次第に慣れて、緊張を少し解消できました。そして、クラブの「奉



田中慶一カウンセラー(左)と
期間終了式にて

仕」活動に参加させていただき、自分の価値観も変わりました。自分だけではなく、他人も助けたい。そのようなことは自分の一生を左右する大切なものだと思います。これからの人生として、大切な宝物だと思って、絶対忘れません。

最後に、本日奨学生期間が終了する同期の皆さん、おめでとうございます。これから新しい人生を送るとき、今まで奨学生の経験を活用して忘れないようにしましょう。

私の日本家族:国際平和をめざすロータリー

掲 姍鑫 ジェ シャンシン

(中国 2021-23/山梨 RC)

奨学生のジェ・シャンシンです。いよいよ、米山奨学生終了式の日になりました。一番言いたいことは「終了したくありません」です。世話クラブのみなさんと、今まで通りに、毎週会いたい。

離れたくない気持ちでいっぱいですが、会うは別れの始まり。出会いがあれば、必ず別れがやってくる。別れがあるからこそ、出会う時間が大切な宝です。米山奨学生になって、家族のようなロータリークラブのみなさんと親睦友好の仲になり、学友会の皆さんと強い関わりを結び、2620 地区米山記念奨学委員会の皆さんと親密になりました。これらは米山奨学生にしかない大切な宝です。この宝を大事に扱っていきたい。

ロータリーで、人間の高潔な品格を多く学習できました。まず、人間は職業、お金、学歴でランクをつけるべきではありません。生活が裕福になっても、貧しい人を軽蔑してはいけません。そして、異文化、マイノリティ、世の中のあらゆることに対して、広い心で尊重すること。さらに、人間は自然環境から脱出できるものでなく、地球という青い星に生活し、その星の一部に過ぎません。いくら科学技術が発展しても、いくら経済のためにも、この美しい地球を守らなければいけません。

ごく普通のことですが、一部の人は目の前の利益のために、大事なことを放棄してしまいます。これからの人生で、そういう人間にならないように常に努力していきます。

何よりも奉仕の精神を心がけること。中国には地球村という言葉があります。グローバル化に伴って、広い地球が小さな村になったという意味です。奉仕の精神が言葉と国境の壁を越え、世界中の隅から隅まで、届くことを願い、届けるように、米山奨学生の小さな力でも尽力します。

米山梅吉はこういう言葉を残しました。「真の平和は決して外部からの圧迫で来るものではありません。長い間のいろいろな内部的な動きがあって、またそれらが合わさって、初めて良い結果を得ることができるものです」。私たち米山奨学生が母国との架け橋になり、民間の助け合うによって国際的な友好の関係を築き、みんなの力で世界平和の日がいつかやってくると思っています。



深澤一孝カウンセラーと

します。また、奨学金を受けることで、私は自分に自信を持つことができました。学業や将来のキャリアに対する自信が増し、自分の能力についてより良い見通しを得ることができました。

この一年間、奨学生として、私は多くの人々と出会いました。多くの人々と出会うことで、異なる背景や文化について学ぶことができ、自分自身の視野を広げることができました。学友会のイベントに参加する際、他大学の奨学生と出会い、友達を作り、様々な経験や考え方を聞くことができました。昨年10月、三保の松原の海岸清掃活動に参加した際、学友会のみんが誕生日プレゼントを用意してくださりと、とても感動しました。また地区大会に参加するとき、さまざまな分野の人々と出会い、彼らの社会貢献への熱意から、ロータリーの精神をより深く理解することができました。

藤枝 RC にお世話になったこの一年は、私が日本で過ごした最も幸せな一年でした。例会に参加するとき、クラブの皆さまと出会い、私たちを支援する理由や、私たちが将来どのように世界に貢献できるかについて多くを学びました。また、クラブの皆さん、特に私のカウンセラーの土屋富士子さんは、例会が終わるたびに彼女の家遊びに行こうと誘ってくれたり、いろいろなおやつを用意してくれたり、お正月には韓国旅行に連れて行ってくれたり、いつもお世話になっています。心から感謝いたします。

奨学金を受け取ったことで、私は社会に貢献することの重要性を再認識しました。これから進学し、仕事をするときには、ロータリーの精神を心に刻みます。終了式は私にとって新たなスタートであり、今後も学友として様々な活動に積極的に参加していきますので、これからもよろしく願います。



大学恩師ご夫妻と土屋富士子カウンセラー(右)と、名古屋大学入学式にて

一期一会 ～ロータリーでの1年間

李旻玉 リ ミンギョク

(中国 2022-23/藤枝 RC)

皆さん、こんにちは。米山奨学生の李旻玉です。この度、奨学生代表としてご挨拶させていただくことができ、大変光栄に存じます。一年間の奨学生としての経験を通じて、私は多くのことを学びました。この経験は私の人生にとってとても有意義であり、今後のキャリアや個人的な成長に役立つことを信じています。

米山奨学金を受け取る前に、コロナの影響で、大学の授業料や生活費について多くを心配していました。しかし、奨学金で、その負担が軽減され、大学での学習に集中できるようになりました。おかげさまで、今年の2月20日に名古屋大学から合格通知が届き、4月から名古屋大学の博士課程に進学

6. 2022-23 年度 期間終了の米山奨学生一覧

(奨学生番号順、2022年9月終了生含む)

氏名	国籍	世話クラブ	居住地
王 怡淵 (オウ イエン)	中国	甲府東 RC	大阪府
方 子欣 (ホウ シキン)	台湾	甲府北 RC	山梨県
辛 飛揚 (シン ヒョウ)	中国	甲府 RC	山梨県
掲 姍鑫 (ジェ シャンシン)	中国	山梨 RC	茨城県
ジョセリン ネオ ワン ティン	マレーシア	静岡 RC	静岡県
パタンドゥング, スミルナ ウィラワラティ	インドネシア	富士 RC	静岡県
ゴズン バン	ベトナム	浜松ハーモニーRC	静岡県
許 允碩 (ホ ユンソク)	韓国	袋井 RC	神奈川県
陳 俊達 (チン シュンタツ)	中国	パワー浜松 RC	神奈川県
マドマン ソピダ	タイ	沼津 RC	千葉県
張 弛 (チョウ チ)	中国	浜松西 RC	静岡県
李 佳彤 (リ ジャトン)	中国	甲府西 RC	東京都
楊 鑫玉 (ヨウ キンギョク)	中国	甲斐 RC	山梨県
王 成旭 (オウ セイキョク)	中国	甲府北 RC	中国(帰国)
ヴィ ティ ゴック チン	ベトナム	三島 RC	東京都
李 江華 (リ ジャンファ)	中国	駿河 RC	静岡県
曹 鑫鑫 (ソウ キンキン)	中国	沼津西 RC	大阪府
李 旻玉 (リ ミンギョク)	中国	藤枝 RC	愛知県
劉 雅文 (リュウ ガブン)	中国	長泉 RC	静岡県

7. 2022-23 年度 理事会メンバー

役職	氏名 (出身国/世話クラブ)	
会長	青山 チャリット (スリランカ/静岡日本平 RC)	
副会長	鄭 清楷 (中国/静岡南 RC)	
理事	上野 佳子 (中国/東京臨海東 RC、会計兼)	李 洪 (中国/横浜東 RC)
	シャマラ マノン ペレーラ (スリランカ/富士 RC)	古 益安 (台湾/尼崎南 RC)
	レー チュオン ロク (ベトナム/甲府南 RC)	王 騫 (中国/沼津北 RC)
監事	ファム ゴック アン (ベトナム/浜松南 RC)	
	成田 みちよ (米山記念奨学会委員、沼津西 RC 会員)	

8. 2022-23 年度 活動記録 (写真)



(1)		
(2)	(3)	
(4)	(5)	
(6)	(7)	

- (1) 第14期通常総会 in 静岡市
 (2)~(3) スリランカ教育支援活動(贈呈式)
 (4)~(7) 三保松原海岸清掃活動& BBQ 懇親会



(8)	(9)
(10)	(11)
(12)	(13)
	(14)

- (8)～(9) 阿部化学株式会社へ企業見学 (焼津市)
- (10) 地区大会 (静岡市) 会場ロビーにて
台湾地震支援金募金活動
- (11) 柿田川湧水公園清掃活動
- (12) 東北被災地訪問 (岩手県山田町の御蔵山)
- (13) " 御蔵山「鎮魂と希望の鐘」にて
- (14) 2520 地区米山学友会と親睦交流 (仙台市)



9. 東北被災地訪問を終えて

米山の精神とは

李 重楼 リ ジュウロウ

(中国 2021-22/静岡西 RC)

4月14日夜から16日にかけて、2620地区米山学友会が主催する東北被災地再訪問イベントに参加しました。時間は限られましたが、被災地の宮城県、岩手県を中心に訪問し、非常に有意義な二日間を過ごせることができました。以下、東北の訪問で感じたことを書きたいと思います。

15日の朝、被災地であった宮城県気仙沼ならびに岩手県山田町を訪問しました。そして山田町の御蔵山にて献花を行いました。そこで、2013年2月に青山会長や上野さんが初めて植えた河津桜はずいぶん大きくなったようで、上野さんは自分を待ってくれたまだ落ちていない河津桜を見た瞬間、まるで母親が子どもを見るように嬉しそうに駆け寄って抱きついて、とても印象的で感動しました。また、地元ロータリークラブから贈られた駅舎の時計が津波の来た時刻で止まっているのを見て、心がとても痛ましく、まるで昨日のこのようでした。津波に襲われた時、皆がどれほど絶望していたのか。特に超高齢化社会の日本では、多くの高齢者は体が不自由で津波に飲み込まれていくのを只々、見ていることしかできなかったのです。

途中、様々な新築の家が並んでおり綺麗なお家だと思いました。瓦礫の中で家を再建し、絶望の中で希望を探っている人たちの強さを思うと身震いするほどでした。同時に、愛に囲まれている自分はどんなに幸せなのか、愛、光や平和は当たり前のことではなく、すべては神からの恵みであり、感謝する気持ちを込めて生きていかなければならないとあらためて思いました。

翌日の夜は仙台に宿泊し、仙台在住の2520地区学友会メンバーの方々と会食し、初対面でありながら、久しぶりに親友に会ったという親近感を強く持ち、異国にいても家族がそばにいてくれるように世界とつながることができる学友会の力を初めて感じ、とても感謝、感動でした。このような学

友会の力こそ、どこに行っても親友がそばにいてくれるような、皆を世界につなげてくれる力です。

同行の皆さんとたくさんお話ができ、本当に美しく可愛い人たちだと改めて感じました。もちろん外見だけでなく、心もとても美しく、澄んでいて、純粋で、優しかったです。それと同時に、世界には自分と似たような人、素敵な人、そして日本の家族のような人がたくさんいることに初めて気がつき、その家族との初めての旅行で、私は米山の精神をより深く理解することができました。それは、無私、奉仕、愛、寛容、そして希望というものでした。

最後に、このような機会を作ってくくださった米山学友会と私の人生で出会った、とても美しく、親切な皆さんに心より感謝したいと思います。

「奇跡の一本松」から感じる日本文化

謝 斯成 シャ シセイ

(中国 2022-24/都留 RC)

2011年3月11日14時46分頃に、東日本で大地震が起きた。当時、まだ中国にいた私は、ニュースでこのことを知ったが、現場にいないとその様子をこの身で感じられなかった。しかし、今年4月15日に第2620地区米山学友会の活動がきっかけで、米山奨学生として初めて東北の被災地、特に岩手県を訪ねる機会を得た。

岩手県山田町の御蔵山には、2012年に国内外のロータリークラブの支援で記憶の継承に「鎮魂と希望の鐘」が設置され、10年前に当学友会の東北復興支援プロジェクトとして、河津桜も植えられたそうだ。当日はあちこち回ったり、住民と話し合ったりすることはできなかったが、始終穏やかな雰囲気を感じた。

もう一つ心に刻んだのは、道の駅高田松原にある、東日本大震災津波伝承館の災害文化と、高田松原津波復興祈念公園内にある「奇跡の一本松」のことである。

私は都留文科大学の国文学科で日本文学や日本

文化について学んでおり、こういった歴史文化の溢れる物語には常に興味が湧いてしまう。また、留学生であり、「日本で感じたことは？」のような質問をよく受けているのだが、申し訳ないことに一言で答えられない時が多い。

今回、伝承館に展示されている地震・津波にかかわる写真や動画や被災物などが目に映る度、人間はどうしても自然界には勝てないのだという哀れを感じた。しかしその後、逆に「奇跡の一本松」に驚いた。高田松原は350年にわたって約7万本の松の木が植えられたが、大地震による津波に壊滅され、たった一本の松が立ったままの状態が残ったという。この「奇跡の一本松」は復興シンボルになり商品化され、『奇跡の一本松』（汐文社、2011年）という絵本も出版された。

また、災害に遭った際には、食料や飲料水を奪わずにみんなで助け合うのだということをカウンセラーの天野忠春さんから聞いた。そのお話から、日本という国は昔から地震や津波といった自然災害に直面する経験が多く、しかも記念碑や資料館を通して災害の歴史が語られていることに思い至り、それらによって後世の人に教訓が言い伝えられてきたのだということを実感した。

それだけではない。去年10月に上映されたアニメ映画『すずめの戸締り』や、1996年に村上春樹によって書かれた短編小説『七番目の男』もそうだが、地震や津波の要素を作品に採り入れることで、一種の文化装置として人々の記憶を蘇らせていると感じられた。以上のように災害による文化の伝承も、日本文化の一つではないかと思った。

東北被災地訪問の旅から

仇 英嬌 キュウ エイキョウ
(中国 2022-24/伊東西 RC)

光陰矢の如し、東日本大震災が発生してから今年で12年目となりました。大震災に奪われた多くの尊い命を悼み、この度は、東北被災地訪問と現地学友会との交流の機会をいただきまして、誠にありがとうございました。

当時2620地区の学友会は震災後、『伊豆の桜を被災地へ＝復興祈念植樹＝』というプロジェクトを計画していました。なぜ岩手県の御蔵山復興祈念公園で河津桜を植えたのかについて、被災地に

希望を与えたかったと考えていたからです。百聞は一見にしかず、実際に当時避難場所となった祈念公園に足を運ぶと、東日本大震災津波慰霊碑、鎮魂と希望の鐘、被災した陸中山田駅の大時計も祈念のために設置されました。また、2620地区学友会だけでなく、各地からのロータリークラブも桜を植えていました。被災地の皆様に希望を与え、そして元気で暮らしていることは何よりです。

大震災の影響を受け、福島原子力発電所問題をはじめとする東北地区の震災復興プロジェクトが次々に立ち上がりました。東北地区の復興問題に関して、できるだけ多くの方々からの注目を集めて欲しいです。例えば、原発事故で発生した汚染土、中間貯蔵施設の建設や居住地の再建設などの難問に関して、一人ひとりの意見やアドバイスを大切にすべきだと考えています。今回の訪問を機に、陸前高田市にある「奇跡の一本松」を訪れました。大震災で発生した津波で約7万本もの松がなぎ倒される中、唯一、荒波に耐えて真っ直ぐに立ち残っていた松です。中国の論語には「歳寒、然後知松柏之後凋也」（歳寒くして、然る後に松柏の凋むに後るを知るなり）、一番寒い時、松柏が凋まず、寒い中寒気に耐えていることが素晴らしい、との意味です。「奇跡の一本松」も同じような状態を示しているのではないかと考えております。ぜひ、「一本松」の気持ちを忘れずに、被災地の復興に対して希望を持ち、これからも皆様と一緒に積極的に復興活動に参加し、少しでも被災地の人の幸福な生活に役に立てればと思います。

最後になりますが、当地区と東北地区との「絆」を大切にし、更なるご発展をお祈り申し上げます。今回の活動を通して、ロータリアン、学友、奨学生との交流できたことを大変嬉しく思います。一緒に活動させていただいたことに感謝しています。また一人でも多くの方が東北地区の復興に関して興味を持つことを心から願っています。



山田町の御蔵山復興祈念公園にて
(写真左)

10. 2023-24年度 新規・継続・クラブ支援の米山奨学生一覧

(奨学生番号順)

氏名	国籍	世話クラブ
パタンドウング, スミルナ ウィラワンティ	インドネシア	富士 RC
ヴ ティ タオ	ベトナム	甲府南 RC
王 非凡 (オウ ヒボン)	中国	笛吹 RC
フヤル, ビシュヌ プラサド	ネパール	静岡日本平 RC
ヴィ ティ ゴック チン	ベトナム	三島 RC
李 江華 (リ ジャンファ)	中国	駿河 RC
朱 双彤 (シュ ソウトン)	中国	静岡西 RC
グエン キ カオ	ベトナム	浜松中 RC
崔 準城 (チェ ジュンソン)	韓国	浜松ハーモニーRC
謝 斯成 (シャ シセイ)	中国	都留 RC
仇 英嬌 (キュウ エイキョウ)	中国	伊東西 RC
張 恒森 (チョウ コウシン)	中国	浜松南 RC
ギミレ, マノズ	ネパール	甲府 RC
ハグワスレン, ノミンダリ	モンゴル	甲府中央 RC
グエン, ヒエウ ドアン チュン	ベトナム	甲府北 RC
ルオン, ゴック ティ	ベトナム	山梨 RC
李 若源 (リ ジャクゲン)	中国	甲府西
李 闊 (リ カツ)	中国	大月 RC
リンテッ テット	ミャンマー	清水中央 RC
グエン, リン ハイ	ベトナム	藤枝 RC
レ ティ チョウ クイン	ベトナム	沼津西 RC
姚 方勃 (ヤオ ファンボ)	中国	パワー浜松 RC
ソリマン, ゼヤド アイマン アブダラ アブエルフェト	エジプト	静岡 RC
曾 松洋 (ソウ ショウヨウ)	中国	三島 RC
ジン ミ ミ テッ	ミャンマー	浜松 RC
李 根 (リ コン)	中国	浜松志耀 RC
王 強 (ワン チャン)	中国	袋井 RC



1 1. 2023-24 年度 主な行事予定

行事内容	実施予定日	場所
米山学友会第15期通常総会	2023年7月9日(日)	米山梅吉記念館
米山学友世界大会「再会 in 関東」	2023年8月5(土)-6日(日)	茨城県つくば市
柿田川湧水地清掃	2023年9月2日(土)	柿田川湧水地公園
米山奨学生期間終了式(9月終了生)	2023年9月10日(日)	米山梅吉記念館
米山奨学生・カウンセラー研修会	2023年10月8日(日)	米山梅吉記念館
地区大会	2023年10月14(土)-15(日)	浜松市
三保松原清掃行事&国際料理パーティー	2023年11月	静岡市
米山奨学生期間終了式	2024年3月3日(日)	静岡市
新米山奨学生・カウンセラー研修会	2024年4月7日(日)	静岡市



世界米山学友による
再会 in 関東
SAIKAI in KANTO

世界米山学友による第3回目の集いを関東10地区米山学友会が「再会 in 関東」をテーマに開催いたします。米山奨学事業の理念に基づき、世界平和の実現のために、米山学友・奨学生、ロータリアン・家族が一同に集まり、再会を喜び、友好を深め、ロータリー米山ファミリーの輪を共に広げていきましょう。

開催日時 2023年8月5日～6日(土・日)

開催地 つくば国際会議場

登録料 ロータリアン(ロータリアン学友含む)とご家族 15,000円
米山学友・奨学生 7,000円
その他(学友のご家族、友人など) 7,000円

主催 関東10地区米山学友会(以下、10地区米山学友会)
第2550地区米山学友会、第2570地区米山学友会、第2580地区米山学友会
第2590地区米山学友会、第2750地区米山学友会、第2770地区米山学友会
第2780地区米山学友会、第2790地区米山学友会、第2820地区米山学友会
第2840地区米山学友会

協力 公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会

お問合せ 「再会 in 関東」実行委員会 yoneyamaworld@gmail.com



筑波山 日本百名山



国際ロータリー第2620地区
Shizuoka Yamanashi
米山学友会



事務局： 〒411-0941
静岡県駿東郡長泉町上土狩 346-1
公益財団法人 米山梅吉記念館 内

メールアドレス yoneyama2620@gmail.com

フェイスブック <http://www.facebook.com/RY2620>

